令和7年度　ノーリフティンングケア普及促進事業
実 践 報 告

ノーリフティングケア
～明るい兆し～

医療法人八女健朋会
介護医療院やひめ

当施設の概要と現状

● 施設構造：2階建て

【入所定員】　介護医療院　48床
・平均介護度　：　4.1
・平均年齢　：　86.8歳

【職員】　・介護職員　：　13名
・平均年齢　：　54.2歳

1階病棟は療養病棟　60床

施設理念
「ひとり一人の心に寄り添う医療
今日の笑顔が明日の喜び」

2年目の課題

職員教育

悩み。不安。。。

①どんな方法が一番伝わるのか？
②全体での研修？それとも個別指導？
③対象者を決めた方がいいのか？
④どこから進めたらいいの？基本から？
⑤職員の負担を考慮した上で指導を行った方がいいのか？
⑥基本から指導を行ったとしても、実際に臨床では対象者がいないと不満がでるのではないか？

話し合いの結果

シートを使用する事で負担が減る事に気づいてもらう

成功事例（ベッド上での体位変換）を作り上げる

個別指導を行い習得を図る

職員の興味を引き出す
現在地点📍

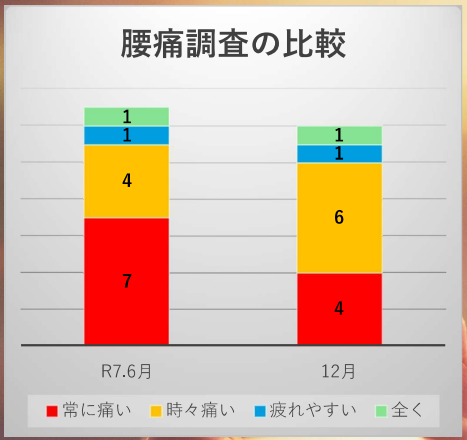
ノーリフティングケアに対する意識変化
負担軽減

良さを理解

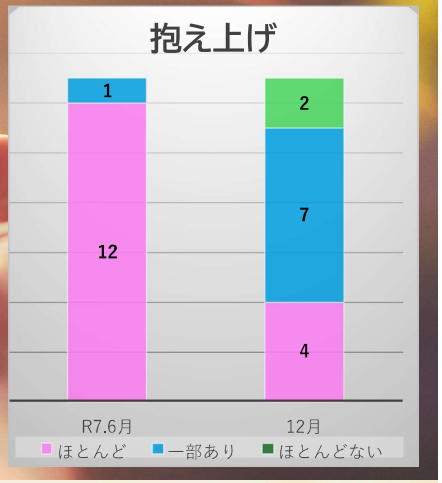
目標に対する取り組み開始

抱え上げない入浴移乗

令和7年度
腰痛調査の結果



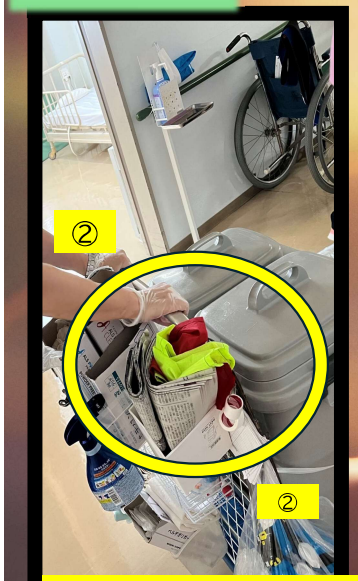
持ち上げ・抱え上げ介助
12名⇒4名
大幅に減少あり！

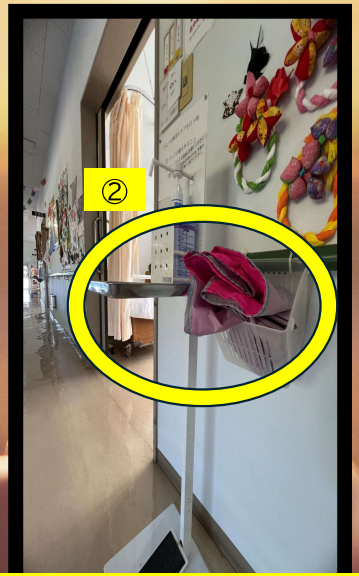


常に痛い職員
7名⇒4名
減少認めた！

現在の状況

①ケアを行う際は注意事項を守り
介入する（ポスター提示）

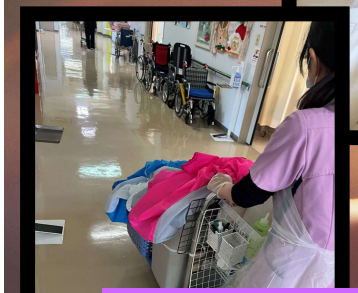




②シートの管理は居室前の手すりにケースを取り付け、オムツカートにも常備している

ベッド柵を外す習慣が出来てきました🌸

時々忘れそうになるけれど、スムーズな使用が出来てます🌸

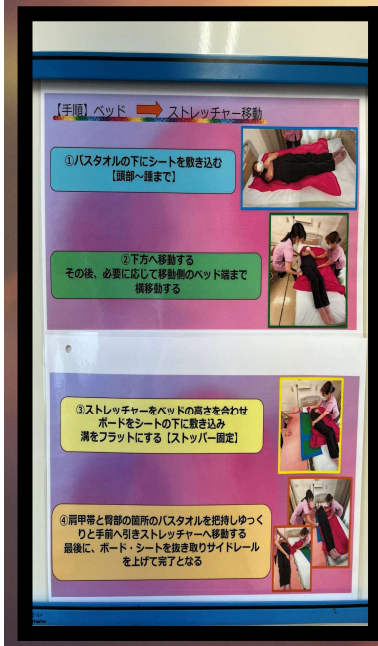


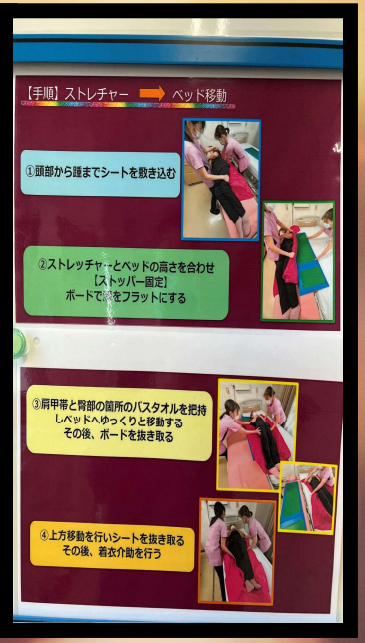
オムツ交換時には必ずカートと一緒にシートも移動します🌸

2人なら上方移動も楽～に🌸

マニュアル作成

※ストレッチャー移乗・リクライニング車椅子離床時



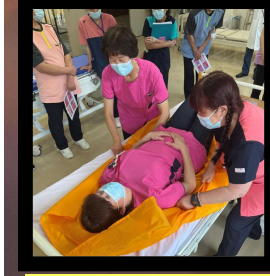
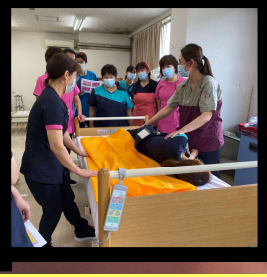


入浴動作に必要なストレッチャー移乗方法を写真付きでマニュアルを作成し、狭い居室でも安全な移乗が行えるように作成。
リクライニング車椅子への離床も同様に可能。
職員への業務統一と事故発生予防へもしっかりと配慮を行う。

アンケート調査による現場職員の声

・とても楽！・体位交換が楽になった
・利用者様が負担にならない様、日々やり方を学んでいる
・身体の使い方。抱えない・持ち上げないを意識する様になった
・バスタオルを抱え上げていた時は上肢・腰への負担も大きく、シートをゆっくりと動かす事で、安全で身体への負担軽減になります
・正規のシート・跳ね上げ式車椅子を購入し増台して欲しい
・シートのMサイズ（小さめ）タイプも使用したい
・バスタオルを廃止した事によって、しわ・ムレの軽減やバスタオルの敷き直しも無く楽である
・当初は、面倒だなと思いながら使用していたが、慣れてくると腰痛も無くスムーズに出来、逆に使わないと腰を痛めると思うようになった
・職員が少ない時は、1人でも出来る
・居室が狭い為、問題箇所の確認や検討も必要だと思う
・手の指の使い方を習いたい。指の使い方によってはバネ指になるリスクもあるかな？どの指でどんな力？

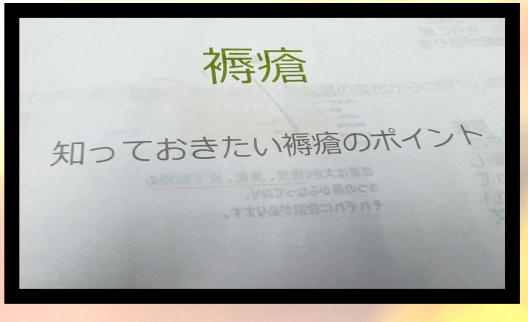
療養病棟にて勉強会を開催

スライディングシートの基本的な使用方法や手順を現場目線で勉強会を開催。今後は褥瘡委員会と情報共有を行いながら、バスタオルの使用廃止へと検討していきます

院内研修

●療養病棟でも介護医療院と同様、褥瘡発生要因とされているバスタオル廃止に向け、まずは勉強会を開催



●褥瘡をテーマに院内研修を実施。基本的な知識を看護・介護問わず一緒に学びバスタオルの廃止を推進する定義を踏まえて発表して頂き、シートを定着させる為にも大切な研修会であった

今年度の振り返り

職員教育の拡大・充実に着目し、実技指導を検討・計画・実践としっかりと時間をかけ、個別指導を行いながら進める中で、実技指導者が時間をかけて指導を行ったとしても、職員一人一人の意識変化と業務優先から腰痛・過負荷の軽減優先へと変化させていく事の難しさを身に染みて感じています。

考え方・捉え方も様々であり全員が前向きな姿勢で毎日のケアが常態化するまでには、まだまだ時間が必要です。

私達は取り組みの中でケアの方法を見直し、これからも看護・介護に携わっていく職員の

“ 変わろう！変えよう！”

と一生懸命に頑張っている方の努力を無駄にしない様、前向きに乗り越えて行こうと思っています。